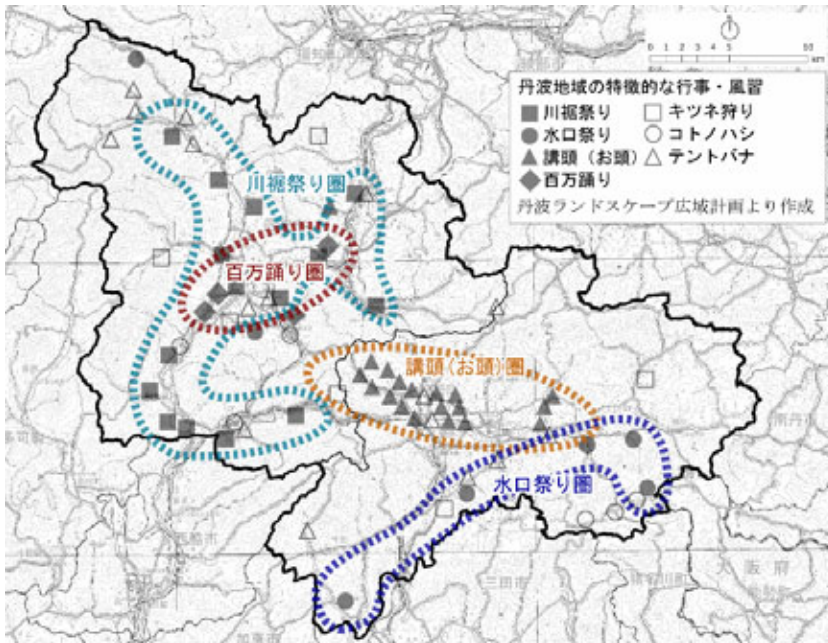


個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
<p>自然への畏敬</p>	<p>○ 農耕社会を母体に形成された丹波地域の伝統行事の多くは、神社を中心としつつも、山、川、田の神を祀り、その地へ降臨することを願うものである。川裾祭りや水口祭りなどの風景は自然を愛し敬ってきた人々の姿を今に伝える風景である。</p> <p>○ 山裾や小丘に鎮座する鎮守は自然への畏敬を感じられるとともに、景観のアクセントともなる。</p> <p>○ 小祠が要所に祀られた山稜空間や鎮守が鎮座する小丘など特質にあった活用が図られてきた山々は、広がりのある景観を享受できる視点場となるとともに、ランドマークともなる。</p>	<p>○ 鎮守の配置や鎮守への眺めなどの空間構成を大切にす。</p> <p>○ 先人が築き上げてきた自然との関係を大切にし、将来世代へと受け継ぐ。</p> <p>○ 独立峰や城山を地区の「風景見張り台」(眺望点)として活用する。</p>

● 行事・風習の分布



● 主な伝統行事・風習

丹波地域では、雨乞いの山の多さを物語るように、水不足の災厄を危惧した伝統行事や風習が多い。川を神聖化する祇園祭(旧山南町)や住吉神社の水無月祭り(旧篠山町)、加古川流域に数多く見られる川裾祭り等はその典型である。

主な伝統行事・風習	概要
川裾祭り	「かわそっさん」などの呼び名で、丹波の佐治川や但馬の円山川・大屋川・岸田川沿いなどで、数多く行われている。佐治川と葛野川が合流する氷上町本郷の「元祖川裾祭り」は、水の恵みをもたらす川裾大明神に感謝する祭り。
水口祭り	田の神を招き迎える行事。松やカヤの木を水口や苗代に立て、田の神を祭るもの。加古川流域に多い。
講頭(お頭)	兵庫県の摂津、播磨の国境から南丹波にかけて分布。丹波地域のみ12月初旬～中旬に行なわれており、旧暦11月の収穫祭に由来するものといわれている。
百万踊り	雨乞い踊りの一種といわれる。干ばつ年以外奉納されないことが特徴。
キツネ狩り	カネ、太鼓を打ち鳴らして農作物の害獣“キツネ”を追い払う小正月の行事。兵庫県北部の丹波から京都府を中心に若狭に広がる。
コトノハシ	節分を過ぎた3～4月の天気の良い日(コトの日)、にわか隣近所の人々が集まり会食し、モチ等を道端や川端にぶらさげる行事。丹波、播磨北部の雪深い山間部に多い。農業神と云われる一本足のコトの神さんが山から田に降りるための依代信仰に由来
テントバナ	卯月八日(5月8日)に竹ザオの先にツツジ等の花をくくりつけ庭に立てる行司。丹波ではヤマンバが出る日と云われ、山に登る事を禁止している。山に帰った神を供養花で招き寄せる行事とも云われている。

● 山裾の神社



● 河川を神聖化した祭り



● 視点場・ランドマークとなる山容



個別方針（デザインランゲージ）	地域景観の特徴	必要な視点
<p>カエデ葉状の尾根</p>	<p>○盆地内にカエデ葉状に張り出した尾根は、独立峰的山地として、ランドマークとなるとともに、3～4km 圏の盆地領域を形成し、天空変化の大きい流域景観を創り出している。</p> <p>○身近に自然を感じられ、平坦な農地の広がりの中で緑豊かな印象を与える一因となる。</p> <p>○雨天時にも山々がかすみ白く消える中で、独立峰的山地は雲のかかった緑の山容を視覚できる。</p>	<p>○独立峰的山地となるカエデ葉状の尾根形状・稜線を保全する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カエデ葉状の尾根では、開発や土取りを行なわない。 <p>○「森との語らいの場」としての活用を図る。</p>

●ランドマークとなる独立峰的山地



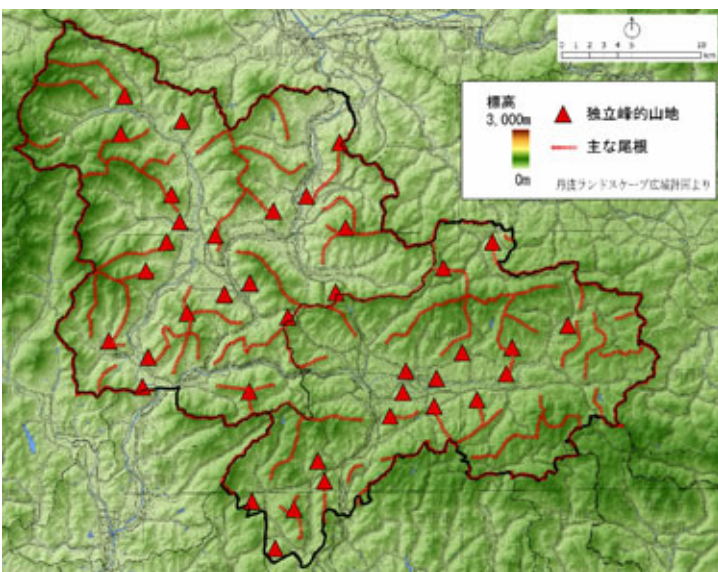
丹波市柏原町母坪付近

●カエデ葉状に張り出した尾根



丹波市市島町（横峰山からの風景）

●主な尾根と独立峰的山地の分布



●カエデ葉状に張り出した尾根の模式



●森との語らいの場

カエデ葉状に張り出した尾根による入り組んだ山裾は、多様な生物種の生息の場となる。

また、人々と生物との出会いの場を提供するとともに、人々が森を身近に感じ、森へと足を踏み入れる機会を提供している。

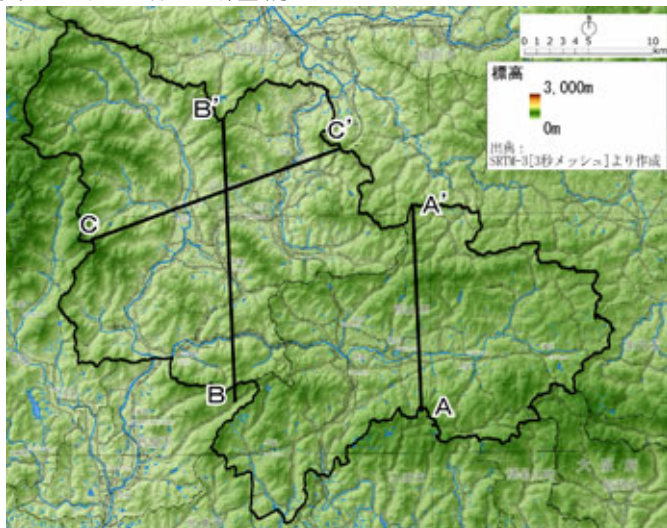
個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
<p>“谿間 (タニマ)” の “田庭 (タニワ)”</p>	<p>○丹波地域は県土全体から丹波高地と称されるように、1000m に満たない比高 600m 余の山が複雑に輻輳しており、山地や丘陵地にあつては、地域を代表する視覚的に明確な骨格軸を有していないことが特徴である。</p> <p>○広がりのある平坦な農地によって、比高の揃った山々により形成される屏風状の山並への眺望が確保されている。</p>	<p>○山容・山稜と中景の農地をセットで捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山容・山稜を保全する。 ・適正な土地利用の誘導による、平坦で広がりのある農地景観を保全する。

●「丹波」の語源

「丹波」の語源には諸説あるが、今日の地形的特徴である、山岳が重層している山国の底としての“谿間(タニマ)”や、古代早くから水稻農法が開かれた地“田庭(タニワ)”等がその一つとして挙げられる。

炊けば赤(丹)くなる米(赤搗米)が波をうつように豊かに実る国という農業を基盤としたところという説もある。

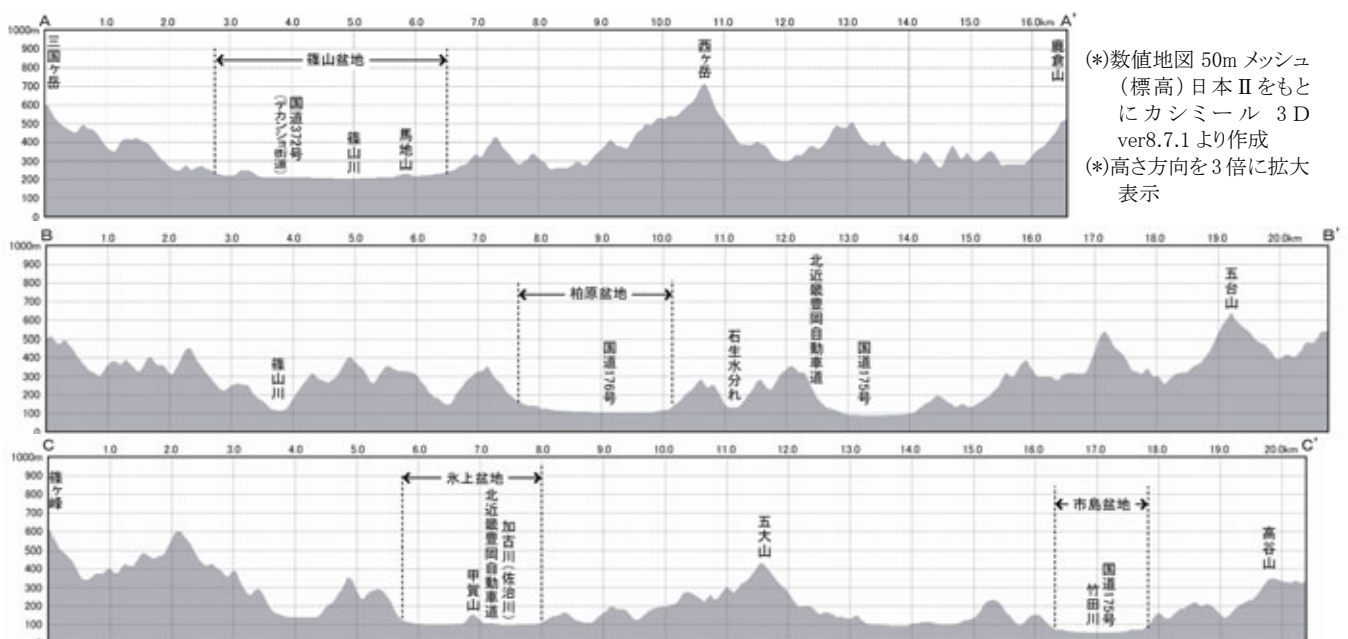
●丹波地域の地形と断面構成



●山々に囲まれた谿間に開けた田庭



●屏風状に連なる山並と
平坦に広がる田庭



個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
<p>一本の木から</p>	<p>○農地に分布する小祠の景観木や社叢林、参道並木などは、平坦な農地の広がる風景の中で緑のランドマークとなる。</p> <p>○街道集落の敷地裏側に植えられたカキノキやクリノキは、幹線道路からの集落への見え隠れを演出する。</p>	<p>○緑豊かな丹波地域であるからこそ、一本一本の木を大切にした景観づくりを進める。</p> <p>○小祠の景観木や玄関脇の景観木などの名もなき巨樹・巨木を大切にする。</p>

●緑豊かな風景のアクセント

周囲を山々に囲まれた盆地や谷筋に農地が広がる丹波地域は、人々に緑豊かな印象を与える。緑豊かな風景の中で、小祠や峠、玄関脇の景観木、参道並木や社叢林がアクセントとなり、変化に富んだより魅力的な風景を創り出している。

●小祠の景観木



●参道並木



●玄関脇の景観木



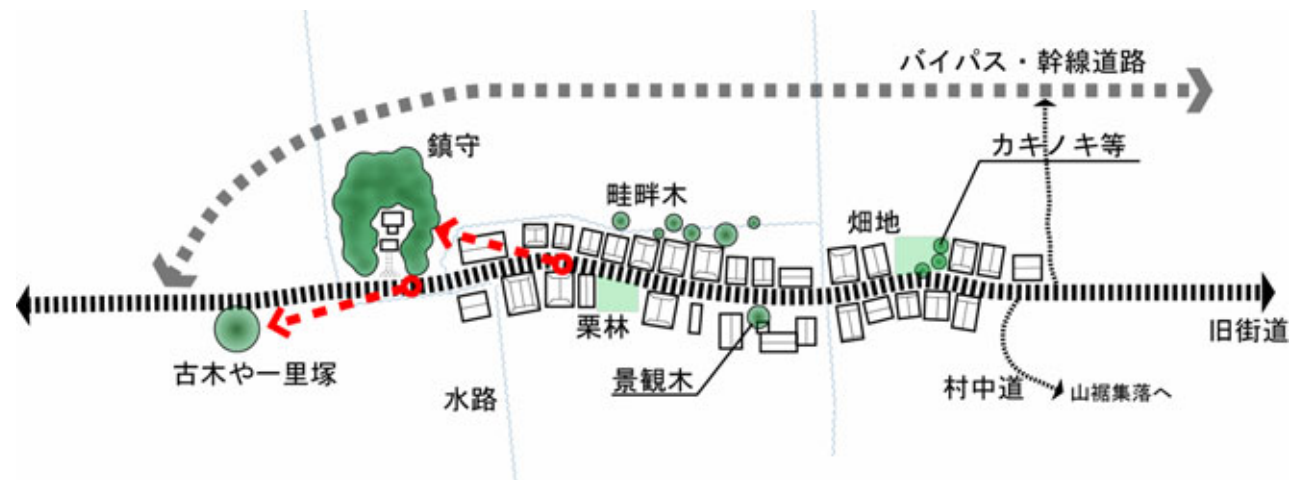
●遠景の中に浮き立つ社叢林と巨樹



●峠の景観木



●街道村の集落構成の模式図



個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
太古から未来へ	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的な町並みや歴史的建造物、古墳や恐竜化石などの歴史的・文化的資産は、観光拠点として、他地域からの観光客の丹波地域に対する印象を大きく左右し、地域のアイデンティティを確立する上でも重要である。 ○様々な説話や逸話を通して見る風景は、情緒豊かな景色として楽しむことができる地域固有のものであり、見る人にとって潜在的な魅力や可能性に富んだ空間であるといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時代を経た建物、樹木、祭りやイベント、習慣・習俗、説話や逸話などの歴史的・文化的資産を大切にする。 ○50年以上の年月を経た歴史的・文化的資産については、保存・保全の必要性を検討する。 ○歴史的・文化的資産と周辺地域の一体的な保存・保全を図る。

●歴史的な町並み



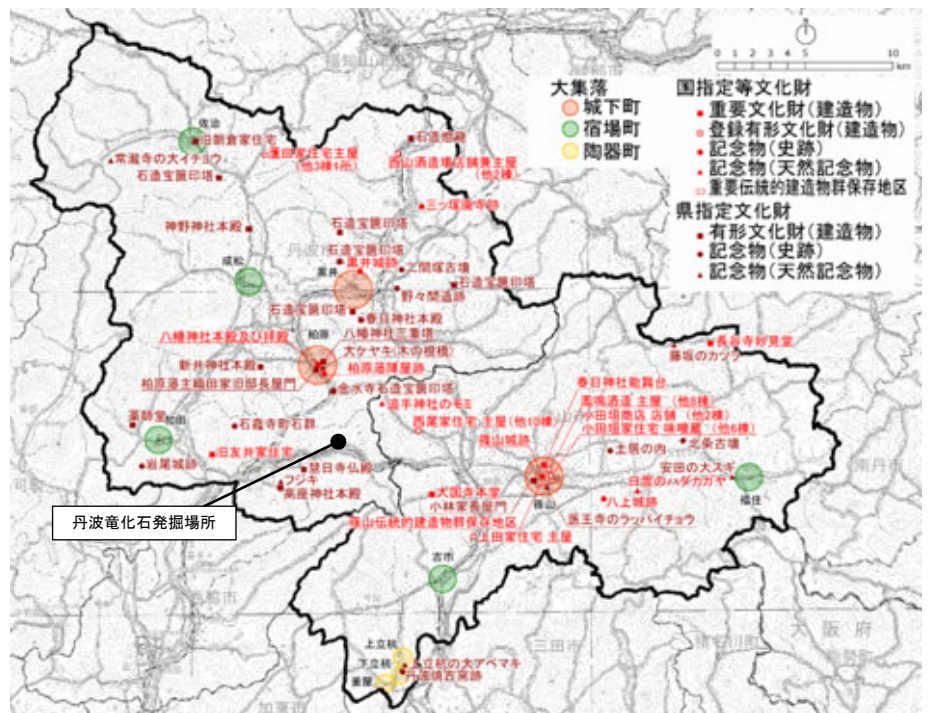
●歴史的建造物 (蘆田家住宅)



●古墳 (北条 (雲部車塚) 古墳)



●主な集落と文化財の分布



●無形文化財・民俗文化財一覧

市	名称	種別	市	名称	種別
篠山市	丹波立杭窯 (作窯技法)	国選択 無形文化財	丹波市	石造双体道祖神	市指定 有形民俗文化財
	波々伯部神社のおやま行事	国選択 民俗文化財		三輪神社の流鏝馬神事用具 (鞍等)	市指定 有形民俗文化財
	波々伯部神社の祭礼操り人形	県指定 有形民俗文化財		修羅	市指定 有形民俗文化財
	池尻神社操り人形の首	県指定 有形民俗文化財		木造獅子頭	市指定 有形民俗文化財
	丹波立杭登窯	県指定 有形民俗文化財		縮塚風流神踊	市指定 無形民俗文化財
	波々伯部神社のおやまの神事	県指定 無形民俗文化財		谷村新発意おどり	市指定 無形民俗文化財
	住吉神社の神舞 (蛙踊り)	県指定 無形民俗文化財		稲畑式三番叟	市指定 無形民俗文化財
	木津住吉神社の田楽 (田楽踊り)	県指定 無形民俗文化財		熊野神社の裸祭	市指定 無形民俗文化財
	鱧切祭 (はもきりまつり)	市指定 民俗文化財		上新庄式三番叟	市指定 無形民俗文化財
	デカンショ節	市指定 民俗文化財		栢原おどり	市指定 無形民俗文化財
	池尻神社人形狂言	市指定 民俗文化財		大新屋新法師おどり	市指定 無形民俗文化財
	本郷春日おどり	市指定 民俗文化財		南多田新発意おどり	市指定 無形民俗文化財
	八潮祭の造り山	市指定 民俗文化財		折杉神社の粥占神事	市指定 無形民俗文化財
	水無月祭の祭礼と打込囃子	市指定 民俗文化財		中野奴行列	市指定 無形民俗文化財
	箕浦竹甫 (竹工藝)	市指定 無形文化財		佐野式三番叟	市指定 無形民俗文化財
丹波市	十三塚	国指定 民俗文化財	青田大歳神社の神楽舞	市指定 無形民俗文化財	
	丹波布	国選択 無形文化財	応地の蛇ない	市指定 無形民俗文化財	
	青垣の翁三番叟	国選択 民俗文化財	成松の造り物行事	市指定 無形民俗文化財	
	檜皮採取	国選定保存技術	常勝寺追儺式「鬼こそ」	市指定 無形民俗文化財	
	常勝寺の追儺用具 (鬼面等)	市指定 有形民俗文化財	稲畑人形制作技術	市指定 無形文化財	
ててうち栗由来版木	市指定 有形民俗文化財				

●丹波地域の潜在的な魅力

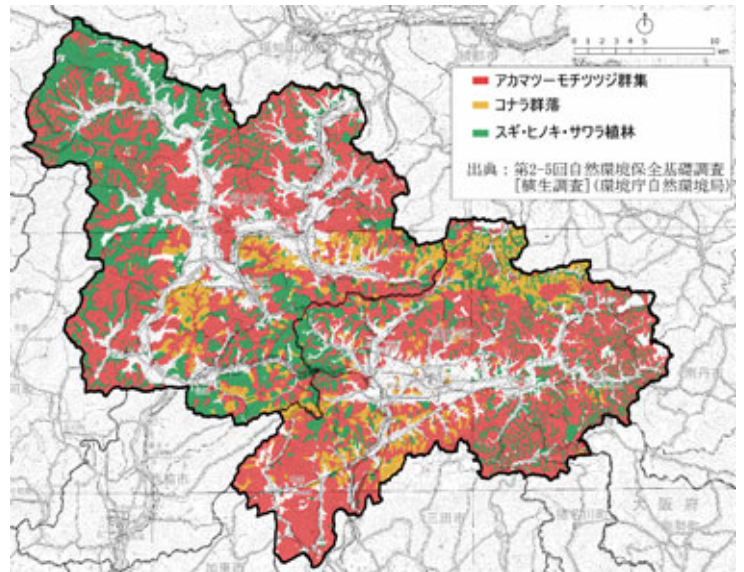
聖徳太子、行基、源義経、源頼光、和泉式部、木曾義仲、足利尊氏、別所吉治、明智光秀、春日局、近衛前久等、わが国の歴史を代表する多くの人達が往来した記録や伝承が数多く残り、必ず民話や逸話が伝えられ、特に著名な人物に関するものが多いことも丹波地域の特徴となっている。

個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
食と器の 地場産業	<ul style="list-style-type: none"> ○栗林と植林、水田と畑地等が緑の濃淡を創出するとともに、集落と一体となって緑豊かな農村集落の印象を強調している。 ○谷あい奥の自然地を巧みに利用し、入り組んだ線形の小さな畑地は生活感を感じることができる。 ○濃い帯が波状に広がる茶畑は、傾斜を強調する力強い景観を創り出し、2月末～3月のビニールシートで覆われた景観は早春の風物詩となっている。 ○陶器町では登窯が山腹を特徴づけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地場産業の基盤となっている風景を認識する。 ○地場産業を支える植生を保全する(下草刈など)。 ○後継者の育成により地場産業の継承・振興を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・元気な土台(人・土)づくり ・地域ブランドの確立 ・第6次産業システムの構築

●丹波地域の特産品

丹波黒大豆、大納言小豆、丹波栗、丹波山の芋、丹波茶、丹波松茸、ボタン鍋、地酒、ワイン、あざみ菜、あまご、丹波焼、丹波布、丹波木綿

●丹波松茸を産するアカマツ林の分布



●立杭焼の登窯



篠山市 (立杭焼)

●川北の黒豆畑



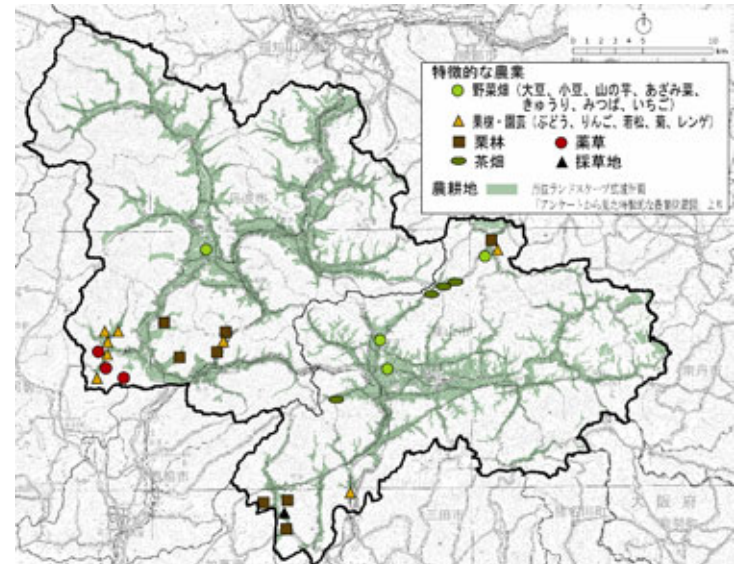
篠山市川北

●味間奥の茶畑



篠山市味間

●特徴的な農業位置図



●山裾の段階的かつ集約的土地利用 (栗林と植林)



- * 帯状のスギ・ヒノキの植林地は、栗林への土砂の流出を防ぐ働きもしている。
- * 栗林の多くは平坦地に形成されているが、小規模な栗林は斜面地にも形成されている。

- * 「丹 (あか) い米が波打つ様に実る国」を語源にもち、古来より農耕の発達した国として栄えてきた「田庭 (タニワ)」
- * 栗林は谷合いの田畑を囲むように山裾に帯状に連続して植栽されるところが多い。
- * オウレン等の薬草畑は段丘上に散在している。
- * 段丘斜面の竹林が帯状に残る谷あいでは栽培される黒大豆、山の芋。

個別方針（デザインランゲージ）	地域景観の特徴	必要な視点
<h2>集落の教え</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ○篠山盆地と加古川流域の山裾集落における竹林の分布の違いなどの土地利用の違いや水・河川との係り方の違いなどにより集落の見え方が異なる。 ○集落の高台に配される寺院の大屋根が遠景からの集落景観を特徴づけている。 ○街道村では、街道裏手の畦畔木や敷地裏側のカキノキやクリノキが集落家屋の見え隠れを創り出す重要な役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集落空間に生かされている先人の知恵を継承する。 ○周辺集落の地勢的な特徴や信仰の場の構成などを踏まえる。 ○集落家屋の見え隠れを創出する樹木を大切にする。

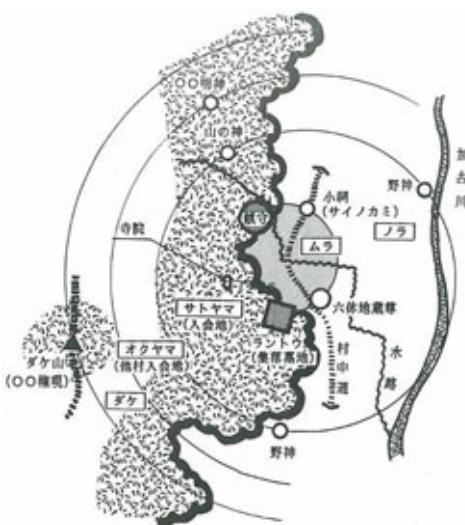
●街道裏手の水路沿いに残る畦畔木



●集落山手の自家用菜園に植栽されたカキノキやクリノキ

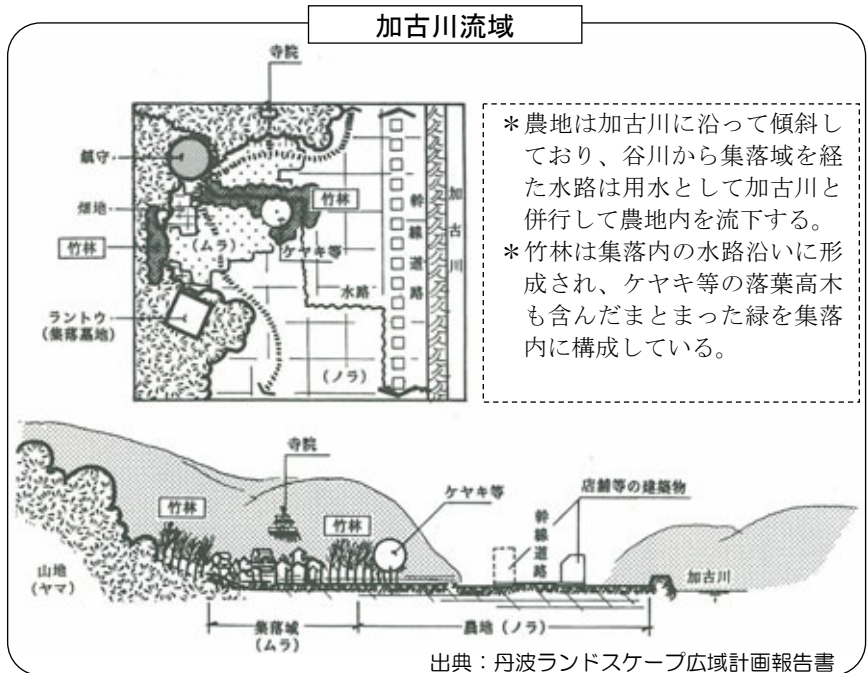
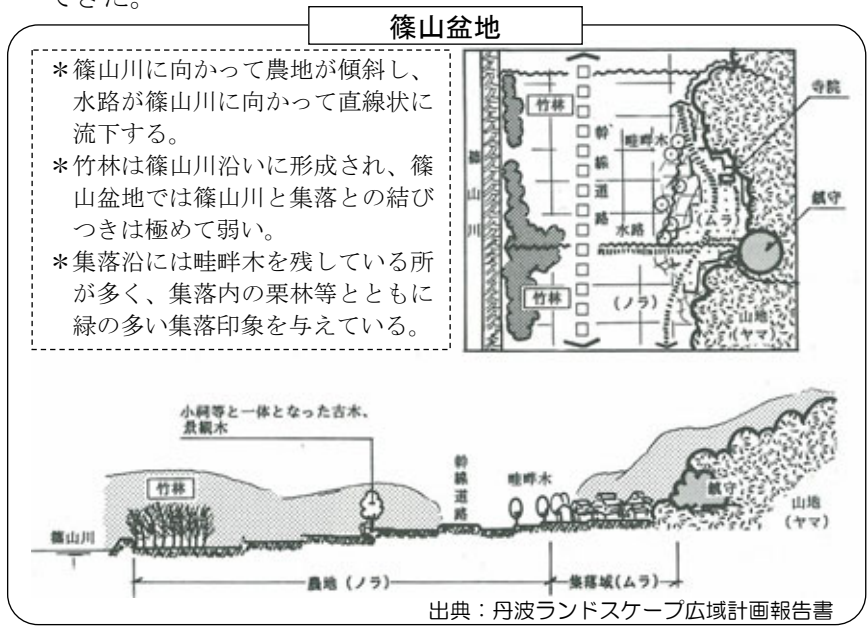


●農村の信仰空間の構成模式図（コスモロジー）



●篠山盆地と加古川流域の山裾集落の土地利用の違い

水を利用しやすく水害を受けにくい土地に集落家屋が立地するなど、長い歴史の中で地勢に合った土地利用がなされてきた。



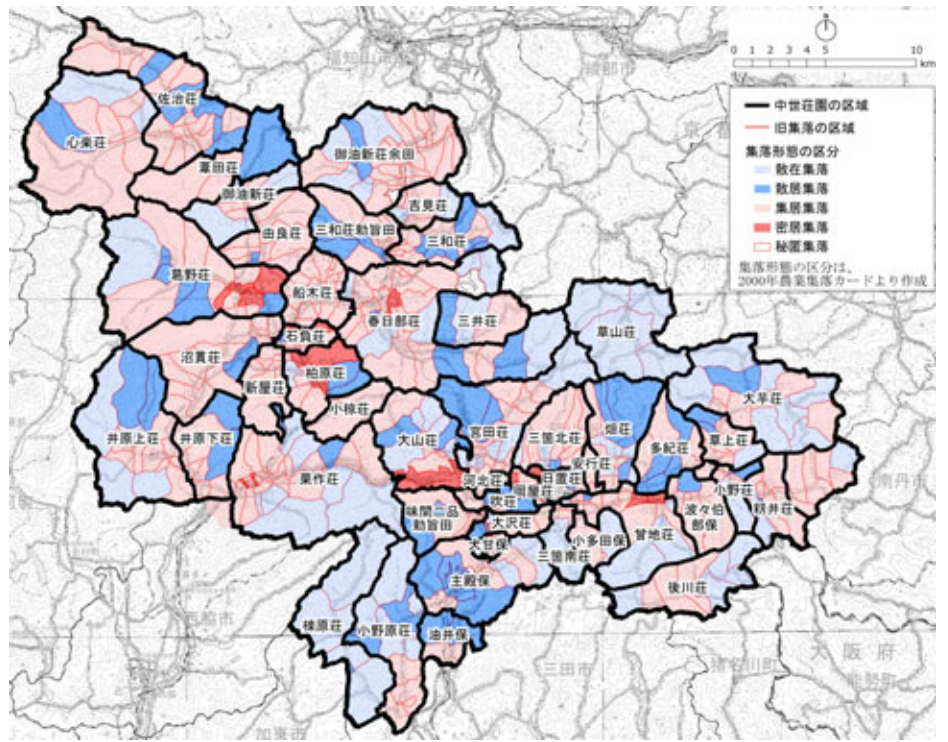
個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
郷的結びつき	○丹波地域では、旧荘園領域を単位とした集落間の郷的結びつきがよく残り、継承されてきている。旧荘園領域を単位とした複数集落による地域的まとまりは、丹波の地勢や城山等からの視覚的領域ともほぼ一致している。	○新たな計画策定にあたっては、旧集落や旧荘園領域を考慮する。 ○集落単位での取組みを進めるとともに、集落間の連携や交流を図る。

●集落区域と旧荘園領域

丹波地域では、中世に寄進型荘園が地形に沿って、小さな盆地領域ごとに形成され、中世から戦国期に至る山城の守護や領主もほぼこの荘園領域を一国として形成している。

千年余にわたる荘園領域は、地域の入会権や宮座、氏子などの祭祀組織を通じて今日まで生活文化や集落慣行として継承され、地域の基礎的な文化圏域となっている。また、支流域ごとに特産の農作物を有している所も多い。

丹波地域では、地勢と歴史的な生活文化圏域は、荘園領域として概ね一致する特徴を有している。



●伝統的なまつりやイベントなど集落や旧荘園領域単位での取組み



篠山市宮ノ前 (波々伯部神社の祇園祭)



篠山市日置 (軒先ミュージアム)

●集落間の交流・連携

「M-1(むらワン)グランプリ」や「まちづくりフォーラム」など



M-1 グランプリ

●地区整備計画や里づくり計画の策定

条例	整備計画の名称	条例	整備計画の名称
緑条例 (県)	丹南町野中地区整備計画	緑条例 (県)	篠山市野間地区整備計画
	氷上町石生駅西周辺地区整備計画		丹波市国領区整備計画
	篠山市日置地区整備計画		丹波市多田区整備計画
	篠山市乗竹地区整備計画		篠山市北野新田地区
	篠山市黒田地区整備計画		里づくり計画



まちづくりフォーラム in たんば

個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
「農 (みのり)」 の風景	<ul style="list-style-type: none"> ○広く平坦に広がる農地は、季節により様々な表情をみせる。 ○農作業の風景は、自然の中に人が溶け込み、一体化した美しい風景である。また、収穫の季節には、収穫祭などのイベントも行なわれ、賑わい・活気のある風景である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○四季の移ろいを大切にす ○体験・交流農業を推進する。

●「農 (みのり)」の風景



●丹波黒大豆の収穫体験



●農作物の取り入れ時期

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
稲 作					田植				刈取			
茶			寒冷紗		収穫	収穫			収穫			
栗									収穫			
薬草	トウキ										収穫	
	セネガ										収穫	
黒大豆											収穫	
山の芋											収穫	
大納言小豆										収穫		
梨									収穫			
リンゴ									収穫			
ブドウ								収穫				
イチゴ	収穫										ビニールハウス	
若松											出荷	
レンゲ				花期								
コスモス									花期			
菊							ハウス		出荷			

個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
人が演出家	<p>○風景は、人々が住み、働き、遊び、人の気配を感じられるからこそ美しいのであり、人の手が加わらなければ田や山林も自然そのものに戻り、風景ではなくなる。</p> <p>○日常的な「ケ」の生活のなかに、非日常的な機会である「ハレ」がほどよくあるからこそ、人々は暮らしていけるのであり、風景の美しさや楽しさを感じることができる。</p>	<p>○行政・住民・事業者などの地域景観づくりに係る各主体が、それぞれの役割を認識し、地域景観づくりに取り組む。</p> <p>○都市住民との交流を進め、開けた地域景観づくりを推進する。</p>

●沿道花かざりや休耕田の活用、勉強会などの美しい景観づくりへの取り組み



●体験学習・体験講座、農業体験や観光ボランティアガイド、イベントなどによる都市住民との交流



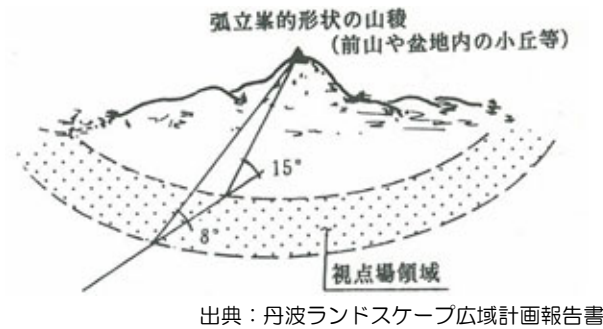
●丹波地域の祭り・イベント一覧

出典：丹波ランドスケープ広域計画報告書

旧町名	社寺(地蔵)関係	山・田畑・河川・公園・文化財など	まち一円
柏原町	柏原厄除大祭(2月) 柏原秋まつり(10月)	柏原桜まつり(4月) 柏原藩織田まつり(5月)	囲碁かいばら大会(5月) 丹波かいばらうまいもんフェスタ(9,10,11月) ふるさと丹波夏まつり(8月)
水上町	円通寺もみじまつり(11月)	かたくりまつり(4月) 清住コスモスまつり(10月)	水分れまつり(7月) 成松愛宕祭(8月)
青垣町	三番叟の舞い(10月)、高源寺山びらき(11月) 今出権現はだか祭り(11月)	倉町野さくらまつり(4月) 徳畑ぼたんまつり(5月)	佐治川まつり(8月)
春日町	兵主神社秋祭り(10月)	春日れんげまつり(5月)	春日まつり(8月) いきいきアグリフェスタ in 春日(11月)
山南町	蛇ない(1月)、厄除祭(1月)、鬼こそ(2月) 節分祭(2月)、首切地蔵尊の大祭(3,9月) 白鹿神社祭(5月)、秋葉祭(7月)、祇園祭(7月) 天神祭(7月)、秋祭り(10月)、青田の神楽(10月) 足利氏ゆかりの石籠寺もみじ祭(11月)	山南であい公園さくら祭り(4月) 川代さくらまつり(4月) 岩尾城まつり(5月)、川裾祭(7月) 山南納涼夏祭り(8月) さんなん漢方の里まつり(10月)	とんど祭(1月) 産業文化祭(11月) 歳の市(12月)
市島町	十日えびす祭(1月)、かゆ占い(2月)、 子授地蔵祭(4月)、ぼけ除け地蔵祭り(5月) 大原祭り(5月)、丹波いちじま九尺藤まつり(5月) 中風除け祭り(6月)十二薬師祭り(7月) 二十六夜祭(8月)、活眼不動の例祭(9月)	高谷山初登り(1月) 五台山まつり(5月) 花しょうぶ三ツ塚史跡まつり(6月) 市島川裾祭り(7月) 案山子祭り(8月)	市島三ツ塚マラソン大会(5月) 竹田祭り(11月) 産業文化祭(11月) いちじまいきいきフェスタ(11月)
篠山町	翁奉納(1月)、篠山春日能(4月) 水無月祭(7月)、丹波夜能(9月) 波々伯部神社祭(8月) 八朔まつり(8,9月)、畑まつり(10月) 春日神社祭(10月)、奇祭はも祭り(10月)	篠山さくらまつり(4月) 丹波篠山山開き(5月) 八上城まつり(7月) たきまつり(7月) 城東味まつり(10月)	いのしし祭(1月) 篠山ABCマラソン(3月) デカンショ祭(8月) 全国車いすマラソン大会(9月) 丹波篠山味まつり(10月)
西紀町	春日神社祭礼(10月)	にしきシャクナゲまつり(4月) ふるさとまつり(8月)	味覚フェア楽市楽座(10月)
丹南町	古市義士祭(12月)	丹南レンゲ花まつり(4月) 大国寺と丹波茶まつり(6月)	丹波たんなん味覚まつり(10月)
今田町	かえる踊り(10月)	-	丹波焼陶器まつり(10月)

個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
<h2 style="margin: 0;">国見と山見</h2>	<p>○人々の生活域である盆地内からは前山である独立峰的山地はほぼ 3~4km 内外であり、天候が良ければ 1 本 1 本の樹冠も認知され、紅葉等の四季の変化も視覚されやすい。</p> <p>○背景の山々が空気遠近法により青垣状に連なる中で、独立峰的山地は“緑の山”として、その視認性はきわめて高い。また、雨天時にも山柴の山々が霞み白く消える中で緑の山容を視認でき、ランドマークとして山裾市街地と一体となる。</p>	<p>○周囲の山々への眺望を保全するとともに、多くの人に山々から美しいながめを享受してもらえらる視点場の整備を進める。</p> <p>○独立峰を眺める場を活かした風景づくりを進める。</p>

●名山の仰角から設定される視点場領域

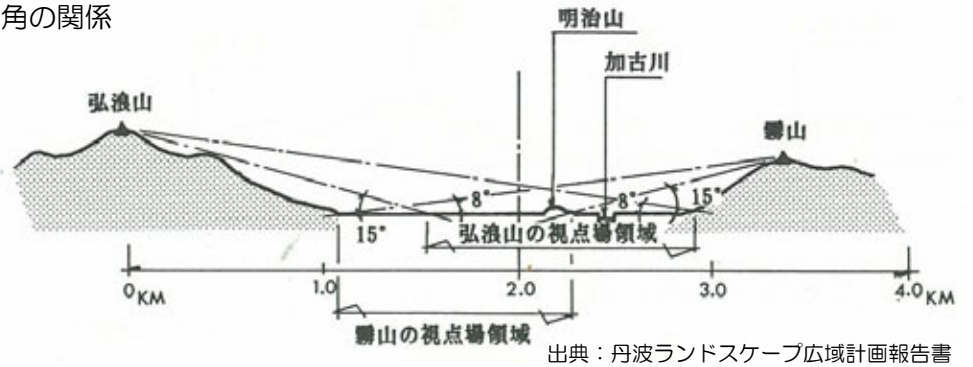


●高城山を望む

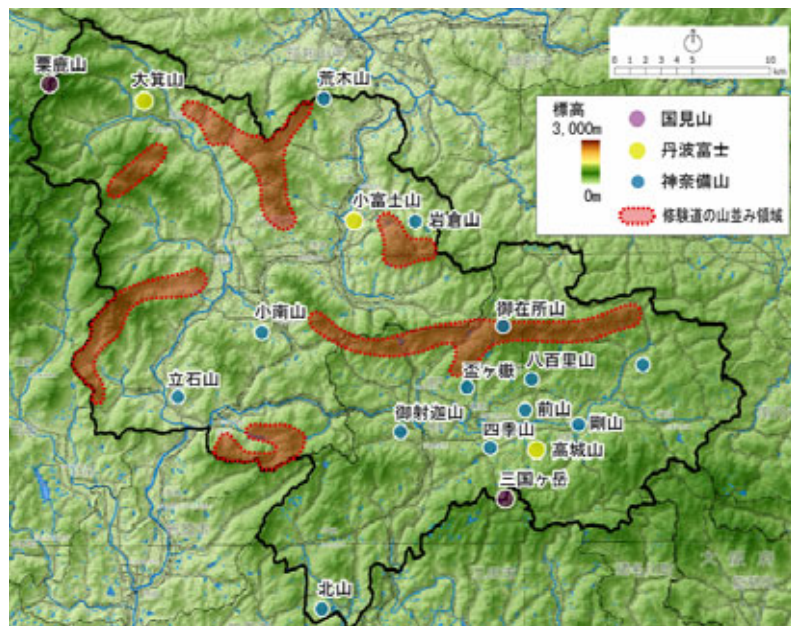


●丹波地域の山々の仰角・俯角の関係

氷上盆地から人間が最も見易い仰角 8~15° (視点場領域) に盆地内に突き出た独立峰的山地の弘浪山や霧山が位置している。



●丹波の主な山



●視点場の整備

山頂などの視点場として整備に加え、地域の人々が集い、風景を楽しめる山裾や小丘などにおいても視点場の整備を進める。その際、視対象ともなることに注意し、周辺の自然環境と調和した整備を行うことが重要となる。



個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
<h2>天空変化</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ○比高の低い山並により、空の広がりを感じることができる。その広がりも、カエデ葉状に伸びた独立峰的山地により変化を見せ、リズム感のある風景をつくりだしている。 ○町なかや集落から田園空間に抜けると、空間的な広がりとともに、青空の広がりを感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模建築物等の建築は、山並みを分断しない。 ○空を横切る電線類を排除する。

●天空変化の模式図



●空を分断する電柱電線類



●幹線道路の開けた空から集落家屋や独立峰的の山地によって狭まる空への変化



●集落内の建物により狭められた空から集落をぬけると広がりのある空への変化



個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
<p>ほどよい 大きさ</p>	<p>○古くからの集落においては、人間らしい尺度の優しい景観が創り出されている。</p> <p>○平坦な農地が創り出す広がり感のある景観と、町並みや建築物のようにより細部まで手の加えられた景観、それぞれの尺度に応じた景観の楽しみ方がある。</p>	<p>○人間らしい尺度を継承した上で、対象とする景観の尺度を考慮した景観づくりを進める。</p> <p>○宅地造成などでは、単調な平面や一律勾配の斜面とせず、植栽などによる視覚的变化をもたせる。</p>

●人間らしい尺度の継承

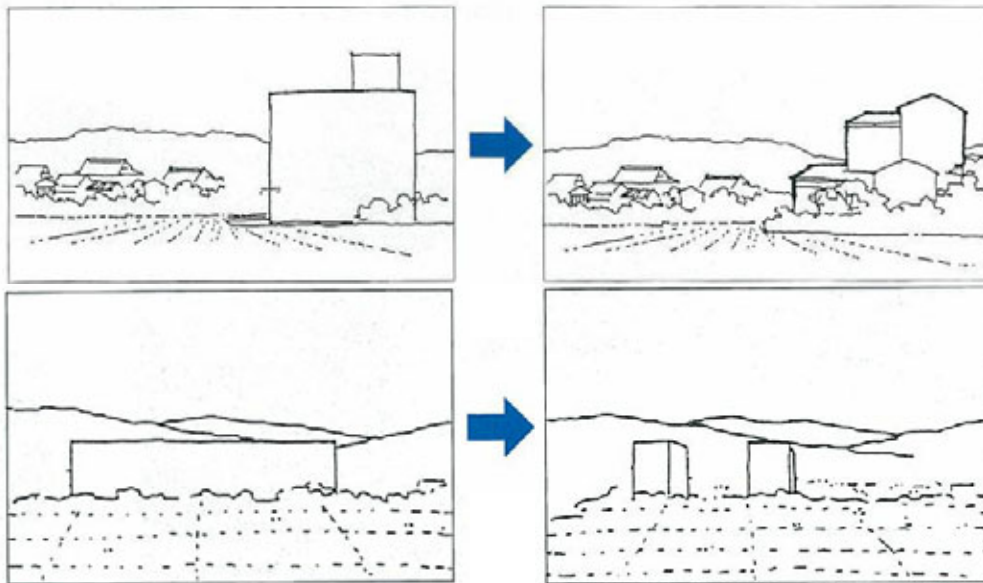
農地の広さや高低差、集落の大きさや構造が、基本的には人の力によって造りだし、維持していけるような寸法に収まっている。石積みや法面の高さが1.5m（人の背の高さ）を越えるようなことはない。人間らしい尺度の優しい風景が形成されてきた。

村中道の石積みは、傾斜に沿って各家屋の敷地ごとに微妙に高さを変えられている。



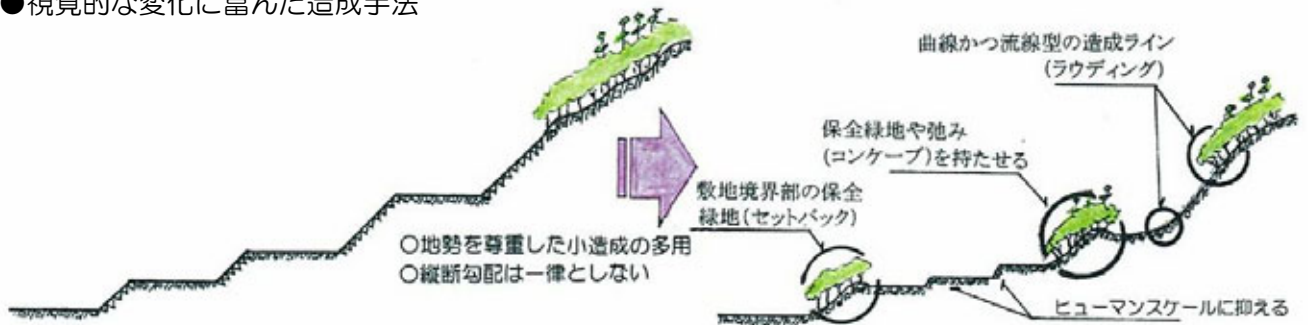
丹波市青垣町

●大規模な壁面を創らない



出典：風景形成地域ガイドライン あすの景観をつくる デカンショ街道地域

●視覚的な変化に富んだ造成手法



出典：緑条例ガイドライン「美しい丹波」

個別方針（デザインランゲージ）	地域景観の特徴	必要な視点
<p>美しい際（きわ）</p>	<p>○丹波地域は腰まで急峻な山が多く、ヤマの際が美しく見える。また、盆地内の小丘は湖に浮かぶ小島のように見える。</p> <p>○ヤマ、ムラ・マチ、ノラなどの土地利用の際が明確であるために、農地と山地による大景観の中で、集落や小丘、緑などの点景（アクセント）となる要素がぼっこり浮かんで見える。</p> <p>○近年は市街化の進展により、かつての際の明確さが失われてきている。</p>	<p>○ヤマ、ムラ・マチ、ノラのそれぞれの際のしつらえに配慮する。</p> <p>○視点場ともなる際からの風景を意識する。</p> <p>○適正な土地利用の誘導によりスプロールを抑制する。</p>

●盆地内に小丘がぼっこりと浮かび上がる



●社叢林や集落内の巨樹が緑の塊として浮かび上がる



●山裾の集落の塊が農地と山地による大景観の中で美しく見える



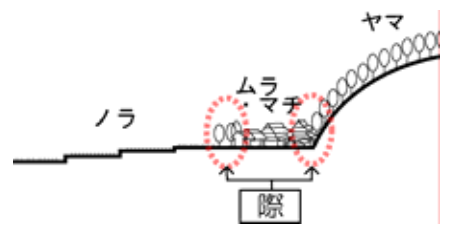
●腰まで急峻な山が美しい際を創り出す



●際（きわ）の概念

際（きわ）とは、ヤマ、ムラ・マチ、ノラなどの土地利用の境界部分をさす。

ムラ・マチーノラ際は、集落の見え隠れを演出する部分であるとともに、重要な視点場ともなる。



個別方針 (デザインランゲージ)	地域景観の特徴	必要な視点
<h2 style="margin: 0;">大地に根ざす</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ○自然地形を生かした安定的な土地利用となっている。 ○きめ細やかな造成処理が等高線に沿ったリズム感のある屋根並みの輻輳に結びついている。 ○等高線に沿って敷地造成されている集落家屋では、家屋周囲の圃場との高低差が建物の低層感を強調し、大地に根ざした印象となる。 ○石積みや土羽による造成は台地に根ざした印象となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○宅地造成などを計画する場合は、その土地の地勢に配慮して、できる限り地形の改変を行なわない。 ○緑化の際には丹波地域の土壌や気候に適した材料や樹種を採用する。

●大地と調和した集落



丹波市山南町

既存の集落家屋は壁面が目立たず屋根面のみが見える。



丹波市青垣町日向

家屋周辺の圃場との高低差が建物の低層感を強調する。



丹波市青垣町

きめ細やかな造成処理による等高線に沿った屋並みの輻輳。

●等高線に沿って曲がった村中道



丹波市氷上町氷上



丹波市青垣町

●自然に調和した材料・樹種の利用



丹波市青垣町佐治

屋並と緑の調和



丹波市青垣町

丹波石の石積み法面

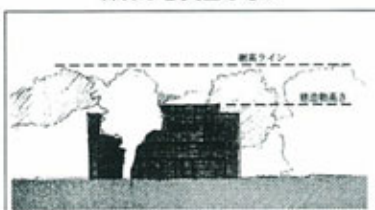


丹波市春日町平松

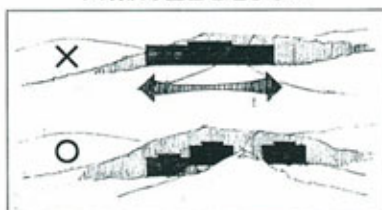
カキノキやクリノキの植栽

●森空間への収まりと眺望の確保

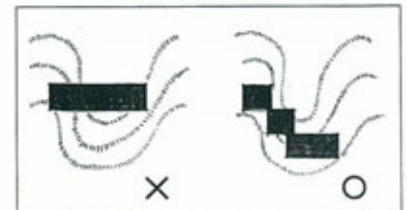
森林から突出しない



大規模な壁面を造らない



地形に合わせて分節化



出典：緑条例ガイドライン「美しい丹波」

個別方針（デザインランゲージ）	地域景観の特徴	必要な視点
省きの美	<ul style="list-style-type: none"> ○並木や屋外広告物、ガードレールを取り除くだけで道路から沿道の農地と山並みの風景の広がりを感じることができる。 ○電線類の地中化、屋外広告物やサインを集約化することで、丹波地域の特徴でもある青い空の広がりを感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな装飾などを創り出すのではなく、まずは、省くことから景観づくりを始める。 ○道端のごみや林立するのぼりや屋外広告物、空を覆う電線類や周囲から浮き立つガードレールなど無駄や見苦しいものを省く。

●「省きの美」とは？（出典：たんば流 道景色のすすめ）

「景観配慮」というとついがんばり過ぎてしまいます。

道路施設は風景の主役ではなく、あくまで人や周辺の木々の緑、まち並みを映えさせる脇役であると心得たいと考えています。

日本人の美意識は、かつては余分なものを削ぎ落とす“引き算の美学”にありました。昨今、そうした美意識は薄れつつあり、特に公共空間では、道端のごみや林立するのぼり、空を覆う電線や周囲から浮き立つガードレールなど、たんばにおいても都市同様、足し算の景になりつつあります。

氾濫するモノや色数を削ぎ落とす‘引き算の美’をめざし、色々な立場の人の参画を得ながら、身近な道路の緑花や美化ほか、屋外広告物の再考なども含め、ともに美しいたんばに磨きをかけていきたいと考えています。

□例 1（案内標識の集約、電線類地中化など）



出典：下立杭柏原線道路景観検討業務報告書

□例 2（透過性の高い薄灰茶色のガードパイプを利用）



出典：たんば流 道景色のつくり方

□例 3（沿道が農地の直線道では歩車道境界に柵類を設けない）



出典：たんば流 道景色のつくり方

個別方針（デザインランゲージ）	地域景観の特徴	必要な視点
見え隠れ	<ul style="list-style-type: none"> ○庭木や畦畔木が家屋の見え隠れを創り出すことにより、建物を空間に同化させ、自然と一体となった集落・家屋の印象を与える。 ○カエデ葉状に張り出した尾根などの複雑な地形により、山の端（尾根先）の山脚道は曲折し、景観のスケール変化を生じさせるとともに、期待感を抱かせる風景となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集落家屋の見え隠れを創り出している庭木や畦畔木を大切にする。 ○新たな大規模建築物等を建設する際には、緑地や樹木の配置、樹種に配慮し、見え隠れを創り出す。 ○山の端の道の連続景観を考慮する。

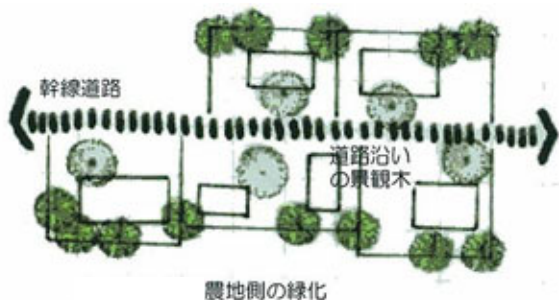
●自然と建物・集落を同化させる庭木・畦畔木による見え隠れ



●期待感を抱かせる地形による見え隠れ



●樹木の配置例



大きな建物には大きくなる木を。
高い建物には高くなる木を。



出典：緑条例ガイドライン「美しい丹波」

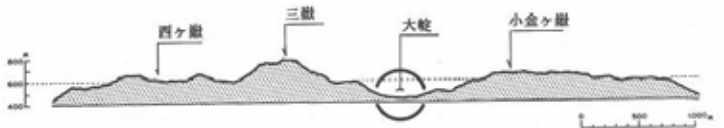
個別方針（デザインランゲージ）	地域景観の特徴	必要な視点
<h1>節目</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ○地勢に沿って連続する段丘や河畔林などは、空間を大きく分節化することでその空間に特徴を与えている。 ○圧迫感のある森に抱かれた登り道から峠を経て下り道に至ると、ダイナミックな景観変化として風景が印象付けられる。 ○集落出入口の小祠と六体地蔵尊や社寺の参道などは人々が歴史と出会うシンボリックな場所として重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○節目のもつ歴史的背景や地勢的な特質等を大切にしていくとともに、集落出入口や参道などの節目の緑化を進める。 ○風景の分節点となるとともに、視点場ともなる峠からの眺望を意識した景観づくりを進める。

●集落の出入口に位置する小祠と六体地蔵尊



丹波市水上町小野

●山並を特徴付けるタワ



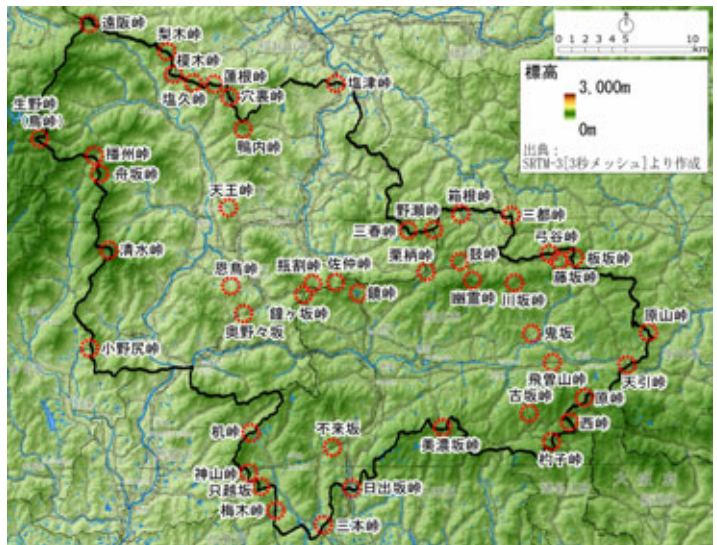
タワは、急峻な山稜の中で比較的緩やかで、くぼんだ山稜部の総称であり、丹波地域固有の名称である。急峻な山並のスカイラインを特徴付けるとともに、丹波地域では修験道として利用された急峻な山稜が大半を占めていることを物語るものと言える。

●農地を分節化する段丘斜面林

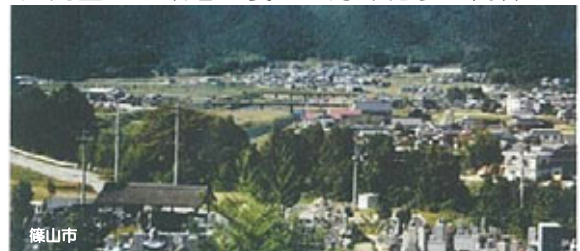


篠山市

●峠の分布



●共同墓地と集落・農地を分節化する樹林地



篠山市

●峠からの眺め

人の目は、その特性として水平より下向き、俯角 10～15° 程度の範囲で見下ろす性質をもっているといわれ、視線の集中する中心領域に良好な風景が存在する俯瞰景では、良い眺めと感じる。



天王坂



鼓峠



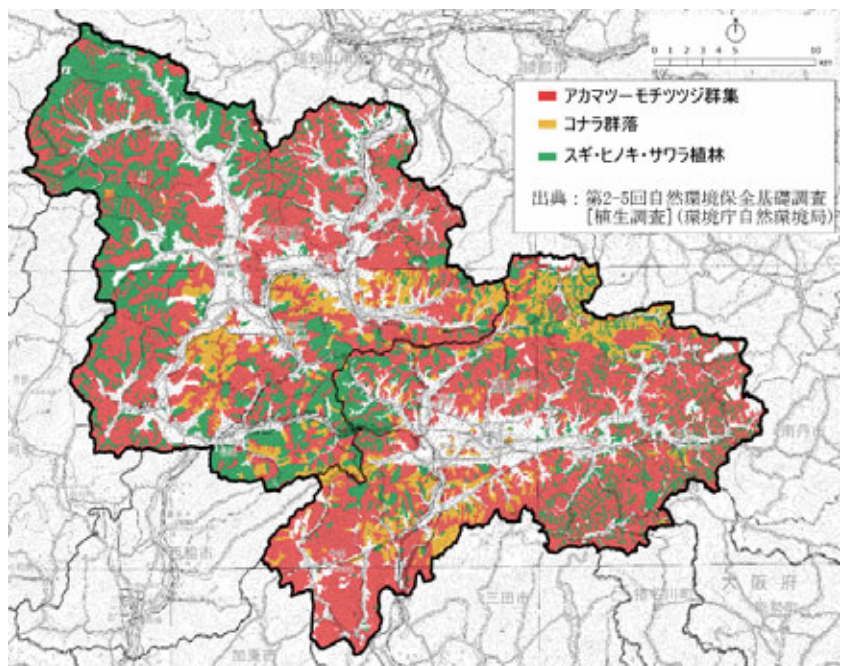
奥野々坂

個別方針（デザインランゲージ）	地域景観の特徴	必要な視点
<h2>たんば色</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ○今田町や多紀連山北側のコナラ群落では紅葉による色彩のコントラストが見られる。 ○田んぼや畦の黄緑色と黒大豆畑の鮮やかな濃緑色、山並の暗い濃緑色と多様な緑色が見られる。 ○丹波地域は周囲の山々の比高が低いこともあり、青色の空が広く見え、集落の葺の波と多様な緑が落ち着いた自然色のコントラストを創り出す。 ○2月末から3月の茶畑は、遅霜対策のビニールシートで覆われた独特の景観を呈している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな施設立地等にあたっては、地域の色彩との調和に配慮する。 ○自然材料、自然のつくり出すと色彩との調和を図る。 ○開花や紅葉、収穫など四季の移ろいによる色彩の変化を生かす。

●紅葉による色彩のコントラスト



●紅葉による色彩のコントラストを創出するコナラ群落の分布



●農作物の違い等による多彩な緑のコントラスト



●加古川の菜の花



●柏原川沿いの桜



●色彩のコントラストの創出

白壁や瓦屋根、黒茶の柱や梁の建物には、落葉広葉樹を用いるとコントラストが際立つ。

出典：緑条例ガイドライン「美しい丹波」

